

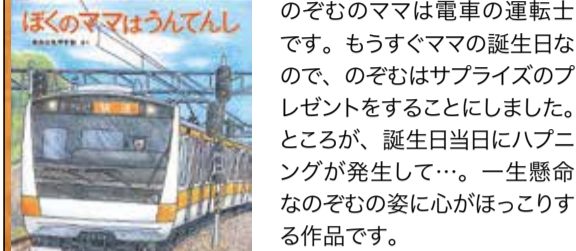
子どもから大人まで

※紹介した本は焼津・大井川図書館で借りることができます。
 ※紹介：焼津市立大村中学校 鈴木明菜 学校司書

ぼくのママはうんてんし

◎作者：おともやすお ◎出版社：福音館書店
 ◎出版年：2012年

対象 小学校低学年～

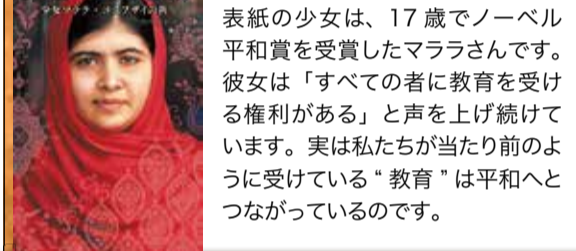


のぞむのママは電車の運転士です。もうすぐママの誕生日なので、のぞむはサプライズのプレゼントをすることにしました。ところが、誕生日当日にハプニングが発生して…。一生懸命なのぞむの姿に心がほっこりする作品です。

武器より一冊の本をください 少女マララ・ユスフザイの祈り

◎著：ヴィヴィアナ・マツァ ◎訳：横山千里
 ◎出版社：金の星社 ◎出版年：2013年

対象 小学校高学年～

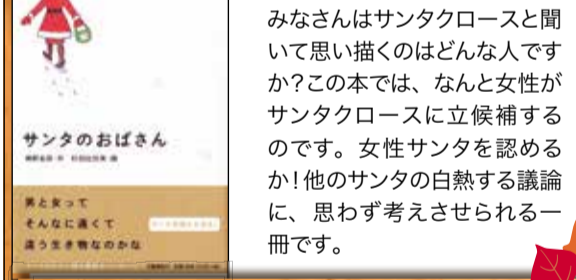


表紙の少女は、17歳でノーベル平和賞を受賞したマララさんです。彼女は「すべての者に教育を受ける権利がある」と声を上げ続けています。実は私たちが当たり前のように受けている「教育」は平和へとつながっているのです。

サンタのおばさん

◎作者：東野圭吾 ◎画：杉田比呂美
 ◎出版社：文藝春秋 ◎出版年：2001年

対象 中学年～



みなさんはサンタクロースと聞いて思い描くのはどんな人ですか？この本では、なんと女性がサンタクロースに立候補するのです。女性サンタを認めるか！他のサンタの白熱する議論に、思わず考えさせられる一冊です。

編集後記



今回は、積極的に地域で活躍されている港第14自治会の皆さんを取材させていただきました。取材を通じて感じたことは、自治会に参加するようになったきっかけはさまざまでも、皆さん関わりを楽しんでいるとても生き生きとされていることです。◎

今回ご紹介した3つの団体は、地域のために生き生きと活動しながら、それぞれの個性を生かし、お互いを尊重し合っていることが印象的でした。特に、女性ならではの気配りや目配りの重要性を感じました。◎

焼津市放課後子ども教室 「わくわくチャレンジ！南小キッズ☆」

平成16年から大井川南小学校で実施している放課後子ども教室、通称「わくチャレ」。
 放課後の1時間程度、校内の余裕教室や体育館を利用し、大井川南小学校の1・2年生が、地域の方と遊びや学びなどさまざまな体験を通じて交流している。

今回は、わくチャレの中で地元協力者として将棋やオセロを教える前田さんと齋藤さんにお話を伺いました。



世代を超えた遊び仲間

共働き世帯の増加や、一人っ子が多くなるなど、家庭環境が変化中、いつの時代も子どもたちは遊ぶことが大好き。遊び相手が祖父母世代でも大喜びです。わくチャレは、孫と同居していない祖父母世代が孫世代と交流できる貴重な場にもなっています。



続けているのは使命感から

わくチャレで10年近く将棋・オセロの指導をしている前田さんと齋藤さんは共に70代。自分の好きな将棋で地域の役に立てるならこれからも続けていきたいと力強く語ってくれました。「わくチャレでの様子を子どもが家で楽しそうに話してくれる」と、保護者からも感謝され、それが2人の喜びにもなっています。

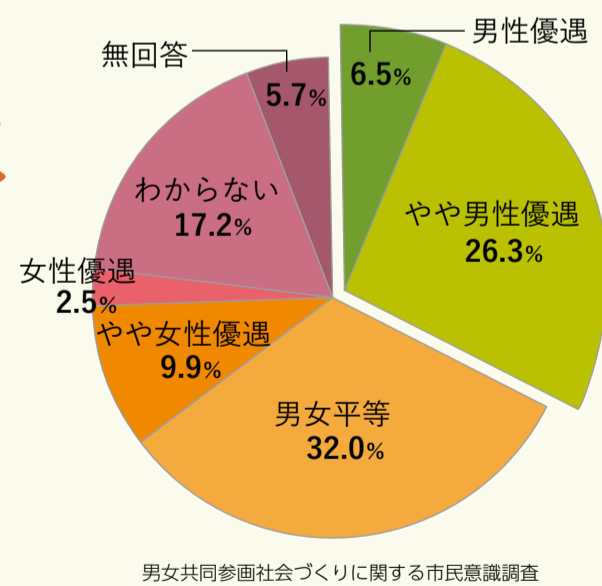
つながるコミュニケーション

わくチャレの始めと終わりには、子どもたちと握手やハイタッチでコミュニケーションをとる前田さんと齋藤さん。地域で会うと子どもたちは、「わくチャレのおじさん！」「将棋のおじさん！」と声をかけてくれるそうです。高校生になっても覚えていてくれるのがうれしいとお2人とも笑顔で話してくださいました。



「わくわくチャレンジ！南小キッズ☆」の取り組みは、男女共同参画社会の実現に必要な「地域の誰もがそれぞれの能力を発揮できる環境づくり」にもなり、世代を超えて喜びを分かち合える地域社会の実現へとつながっているように感じます。

地域活動での男女の 平等感について あなたはどのように思いますか？



平成29年度に実施した男女共同参画社会づくりに関する市民意識調査では、地域活動での男女の平等感について、「男性が優遇されている」と回答した人の割合は32.8%でした。これは「女性が優遇されている」と回答した人の割合12.4%の2.6倍になります。

実際には、女性が地域活動の多くを担っているにも関わらず、代表者や役員など意思決定に男性が関わる場合が多いことなどが調査結果の要因と考えられます。



港第14自主防災会 女性防災委員会

平成30年1月に男性中心だった自主防災活動に女性の視点を取り入れることが重要であると考え、女性防災委員会を発足。防災に関する講座への参加、他市町への視察や研修、女性や乳児のための備蓄品の整備、防災訓練での応急手当の実演などの活動をしている。

やってみると楽しくて

高齢化が進み、熟年層の定年延長もあり、熟年者や若者が仕事などで家を空けることが多くなりました。昼間家にいるのは、ほとんど高齢者の方ではないでしょうか。近所ではあまり出会いもなく、希薄化が進んでいるように感じます。こんな時に災害が起こったらどうなるのかとニュースなどで災害を目にするたびに考えさせられました。そんな時に順番でまわってきた保健委員になったことがきっかけで防災活動に関わるようになりました。声をかけられるまでいろいろな組織があることすら知りませんでした。いざ、やってみるととても楽しくて、それが今でも続いています。

自分たちのまちは自分たちで守る！

初めは女性防災委員それぞれの年齢や考え方が違い苦労したこともありましたが、お互いを尊重し合い、個性を生かして活動しています。上手に実技を披露できたときの達成感はたまりません。いろいろなことをしてきた今では、仲間だという一体感があります。自主防災会の手の届かないすき間を埋めることができるよう、これからも活動を広げていきたいです。せつかく得られた防災についての知識や技能を、より多くの人に知ってもらうように啓発活動を進め、地域に還元していきたいです。



やいづ観光案内人の会

平成29年5月 観光案内人養成講座受講生が中心となり結成
 平成30年10月 本格的にお客様への案内活動を始動
 令和元年6月 Facebook開始
<https://www.facebook.com/yaizukankouannainin/>

男性23名 女性10名（高校生大学生各1名、最高齢84歳 60代70代が中心）

地元の良さを生かすために

案内をするにあたっては、地域との関わりを大切にしています。花沢の里は市民の生活の場でもあるので、初めは観光コースとすることに不安や戸惑いの声もありました。しかし、大声で騒がない、家をのぞき込まないなど住民の迷惑にならないように気を使うことで、少しずつ信頼関係を築き、今では安心してもらえるようになりました。

得意な分野で貢献

研修会では各分野の専門家による講義や会員同士のレベルアップのためのガイドの模擬実習をしています。ガイドのスキルはもちろんのこと、写真、インターネット、資料作成など、それぞれが得意なところを生かし、互いに補い合って活動しています。自由にやりたいことをやらせてもらえる雰囲気です。



焼津がもっと好きになる

お客様に紹介するために焼津の良いところを探し、聞く立場になって工夫したり、知識を増やしたりすることが自分たちのやりがい、ひいては生きがいにつながっています。活動を通してさらに焼津が好きになりました。市内外問わず皆さんに焼津を好きになってもらいたいです。



「男とか女とかではなく、できる時にできる人ができる事をする。」という言葉が印象的でした。みんなが気持ち良く活動するには、お互いを尊重する気持ちが大切だと感じました。

問合せ先：やいづ観光案内人の会 事務局（一社）焼津市観光協会内 TEL 054-626-6266 FAX 054-626-6267



大災害が発生した時、思わぬ事態が起こるなど行政や防災組織が十分に対応できない場合があるかもしれません。そんな時に力を発揮するのが「地域」との関わりではないでしょうか。いつ起こるかかわからない災害に対していろいろな目線・考え方は、とても大切です。それぞれの能力を発揮できる場を作ることでより多くの人々が地域に関わり、暮らしやすい社会になってほしいと願います。



みんなが「地域」の主役です。

地域の活性化やさまざまな課題の解決のためには、地域の皆さんによる主体的な活動が重要となります。地域のための活動がいつの間にか、人のため、未来を担う子どもたちのためになり、ひいては、自分自身の生きる喜びにつながるようになっていく方もいます。特別な人ではなく、地域のために男女が互いに尊重し、共に助け合い、活動を推進している3団体を紹介します。

